

令和8年度

山瀬学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 主体的・対話的で深い学びを育む学習指導方法の改善
- ② 他者との関わりの中で伝え合う力を高める言語活動の充実

校長

村松 由丈

学力向上推進員

本多 謙一郎

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○国語・算数の基礎・基本的な知識については一定程度定着している。</p> <p>●話を聞こうとする態度は一定程度、身につけているが、まだ「聞く力」の定着は不十分である。</p> <p>●語彙力が不足しているため、聞いている内容を十分に理解できていない。</p> <p>●読解力、目的に応じ書くなどの国語における言語能力は、まだ、十分でないところもある。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、文章を読んだり、書いたりすることができる。</p> <p>・学年に応じた「聞く力」を習得し、話や文章の要点を聞き取り、聞き取った情報から目的や意図に応じて必要な情報を選び、話したり書いたりできる。</p>	<p>・学年に応じた「聞く力」の育成のため、興味を持って聞くような教材を用いて「聞く」ということを意識させる。また、聞く姿勢ができてから話し出す。</p> <p>・「聞き取り」がしっかりとできているかどうか定期的にチェックする機会を設け、「聞く力」の習得度合いを確認する。</p> <p>・学習後、「振り返り」の際、定型文を活用したり、聞き取った要点やキーワードを使ったりして話したり書いたりさせる時間をとる。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○文章のモデルがあれば、当てはめて表現ができる。絵や文で表現することには意欲的である。</p> <p>●適切な資料を選び、比較したり、要点をまとめたりして、自分の思いや考えを筋道を立てて表現するのが苦手である。</p>	<p>・自分の伝えたいことに関わる適切な資料を選び、資料どうしを比較したり、これまでの経験と照らし合わせたりしながら、考えをまとめることができる。</p> <p>・自分の伝えたい事柄を、適切な表現方法を選び、伝えることができる。</p>	<p>・一人一人に発表する機会、日記や短作文を書く機会を設ける。各教科等で、タブレット等を活用し、意見を共有する。</p> <p>・まとめの学習の際に、これまでの学習で利用した資料などを生かし、比較したり、関係性を見いだしたりして文章にまとめる機会を作る。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○興味があることについては、集中して取り組むことができる。</p> <p>●自分から進んで課題を見つけ、追求しようとする意欲が十分ではない。</p>	<p>・自ら見つけた課題や指導者が提示した課題に、粘り強く主体的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。</p>	<p>・児童が主体的に取り組むことができるように、授業導入時に、体験や動画を活用し、興味を引くような工夫をする。</p> <p>・ICTなどを活用し、学習した内容を他学年に伝える機会を作り、他学年との関わりを通して、学習に取り組む意欲を高める。</p>			